

ピース・インド プロジェクト

～インドのコットン生産地における 児童労働への取りくみ～

特定非営利活動法人ACE(エース)

2011年6月 成田由香子



〒110-0015 東京都台東区東上野1-6-4 あつきビル3F

TEL: 03-3835-7555 FAX: 03-3835-7601

URL: <http://acejapan.org> Eメール: info@acejapan.org

ACE(エース)のミッション

子どもの権利が守られ、世界中のすべての子どもが安心して希望を持って暮らせる社会をめざして、市民と共に、児童労働の撤廃と予防の活動を行うNPO法人です。

国際協力

危険な児童労働を行う子どもを救い、教育を支援する活動
→インド・ガーナ

アドボカシー

児童労働を生み出す世界のしくみや根本原因の見直しを呼びかけ、働きかける活動→日本



現状 インドのコットン種子生産地域の約90%を占める4州で

約40万人の児童労働者、うち54%が14歳未満、約70～80%が女子



児童労働の需要要因

- 人工授粉が必要なコトンの品種が急増
- 子どものほうが賃金が安い
- 子どものほうが言うことを聞く

児童労働の供給要因

- 教育への関心が低い
- 教育のアクセス・質の問題
- 女子への差別・伝統的慣習
- 親が仕事がない・低収入

インド アンドラ・プラデシュ州のコットン種子畑で働く少女たち (C)ACE

「ピース・インド」プロジェクト

インドのコットン生産地域で、危険な労働から子どもを守り、
すべての子どもが教育を受けられるように



⇒子どもの教育の徹底

- ・ブリッジスクールを開校、
公立学校へ橋渡し
- ・公立学校の環境改善、就学促進



⇒おとなの仕事の機会と収入改善

- ・職業・技術訓練の支援

アンドラ・
プラデシュ州
ナガルドーディ村
(人口約2千人)



取りくみ：公立学校へ就学の橋渡し、環境改善



ブリッジスクールの運営

- 働いていた子どもが基礎教育を学び、公立学校に通えるよう橋渡し
- 給食、制服、教科書、文具などの支給で貧しい家庭の子どもも就学できるように



公立学校の環境改善

- PTAなどによる学校委員会が、行政に働きかけて、教員の補充、教室やトイレを設置



住民グループによる子どもの就学の呼びかけ

- 畑での児童労働チェック、働く子どもが就学するよう家庭訪問と親の説得などを行う

これまでの変化：7割の児童労働者が学校へ

- プロジェクト開始時、
村の子ども約540人の約3割(160人)が児童労働
↓
- 活動して約1年後、児童労働者の約7割、
123人(男の子55人/女の子68人)が
労働をやめて教育を受けるように
⇒うち6割が村の公立学校へ
他4割はブリッジスクールに通学中



サビタちゃん(8歳)
祖父母と生活して公立学校へ

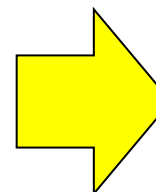
- 親の出稼ぎと一緒に村を出た間、弟の世話で学校へ行けなかった。
 - プロジェクト開始後、祖父母とくらし、ブリッジスクールに通い、その後、公立学校の1年生に編入。
- 「今はお爺ちゃんとお婆ちゃんが面倒を見てくれるから安心。学校へ行ける毎日がとても楽しいよ！」

課題：女の子、女性の自立・収入改善



まだ残る児童労働、多くが女の子

- 51人(うち8割が女の子)の子どもが労働についている
- 女の子への差別、幼児婚や結婚持参金の習慣、家計を助けるプレッシャーなど



就学機会を失った

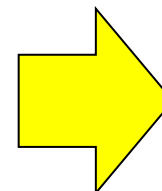
女の子の自立を支援

- 基礎教育支援、縫製の職業訓練

マヘシュエリちゃん(11歳) 父親の理解を得られず、また働くことに
「ブリッジスクールでは勉強ができた楽しかった。また通いたい」

親が十分仕事を得不られる

- 乾期には農業ができず、子どもを連れて他の村に出稼ぎへ。
- 子どもはその間学校へ通えず。村へ戻っても中途退学し、働くことに



親が生計を立てられるよう 収入向上を支援

- 女性自助グループ運営に関する訓練、養鶏・養羊による収入向上訓練

「コットンのやさしい気持ち」プロジェクト

目的：コットン産業での児童労働をなくす

ピース・インド
プロジェクト
(コットン生産地の
子ども支援)



企業の
意識
Up!



講師派遣・セミナー

児童労働のない
製品の
生産、調達、販売、
消費の実現

企業のCSRレビュー、
コンサルティング



消費者の
意識
Up!

消費者や企業が
現地の活動を支援

オーガニック
コットン
製品の販売

